

妖狐

ようこ
いんもんきたん

淫紋奇譚

成年
コミック



Presented by

ふみひろ

第5話

二次元ドリームコミックス

妖狐
淫紋奇譚
ようこ
いんもんきたん

第5話



ここが
水神様とやらを
祀まつっている社でじやか



水神様と巫女たちが
住むというわりには
なんの霊力も感じない

代わりにほんの僅ちひか
だけど妖気が漂ただよってる



それにあれ人形だ…
死体を操さってるのか
荒神の時と同じで
水神様も妖怪かな？



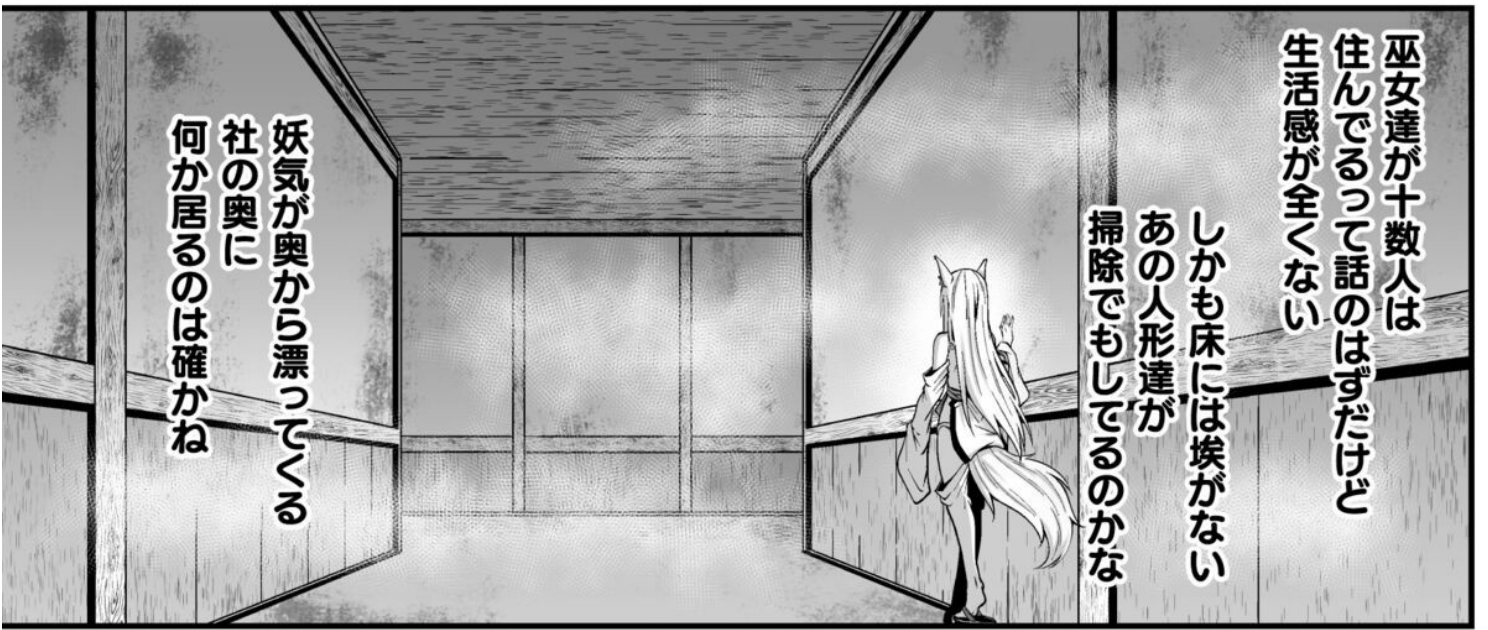
妖気を流し
腐敗を止めてるみたいだから
食料にしているのかもね



荒神の時と同じなら
白の痕跡が何かあるかも
奥まで調べてみるか

キィ

ガッ



巫女達が十数人は
住んでるって話のはずだけど
生活感が全くない

しかも床には埃がない
あの人形達が
掃除でもしてるのかな

妖気が奥から漂ってくる
社の奥に
何か居るのは確か



タタタ

何これ？
微かだけど霊力がある
巫女の祭具？

地下か...
妖気はここから
流れてきてる

タタタ



妖気に混じって
分りにくいけど



白…あいつの匂いだ
あいつは此処に居たんだ

やっと見つけた
あいつの痕跡…

クニクニ



お腹の紋が少しだけど
白の妖気に反応してる

ぴく

此処を調べれば
白の行方が分かるかも

必ずあいつを見つけ
出して…

なんじやお主
白様を知って
おるのか？



気配を感じなかった…



なんじゃこの児戯は…
鈍感で動きもとろい…
白様の名を出したわりには
下賤な妖怪じゃのう



巫女には見えないけど
あなたがひよつとして
水神様？

この社に漂ってた妖気
コイツのだ…
それに白を知っている

水神？
妾が水神じゃと

あんな醜い妖怪に
間違われるとは
心外じゃのう

水神など何年も前に
白様が巫女共々喰つておる

妾は白様の命にて
土地神無きこの地を人が
騒がぬように維持して
いるだけじゃ



そんなことは
どうでも良い

妾は食事を邪魔されて
少々気分を害しておる

お主の肉を喰らえば
多少は気が晴れるかも
しれんな



何故
下賤なお主が

白様の名を出したかは
その腸を喰いながら
尋ねるとしよう

速いっ



お主の妖気…そうか
白様に作られた妖か
道理で白様を知っておる
はずじゃな

妾もそうじゃ言わば
姉妹という訳じゃな
だが白様に作られた
割には弱すぎるのお

其処そこいらの妖怪に
毛が生えた程度じゃ
大方賢に作られたのが
逃げ出した所か…

そんな輩がよく白様を
害そうと思つたものじゃ
力どころか知恵も
足りぬのではないか？

それとお主
骸むくろから生み出されたであろう？
瘴むさ気が濃くてかなわん
喰つたら妾が腹を下しそうじゃ

と言つて
ただ打ち殺すのでは
興がないな



そこで
お主が息絶えるまで
戮り姦すること
しようぞ

きゅん



妾が妖気を与えぬと
直ぐ崩壊するんじやが
このなりでは維持が
大変でう

お主の言っていた水神じや
白様が喰った残り滓を妾の
糸と妖気で繋ぎ合わせた
張りぼてじゃがな



な...なにこいつ...

些^{いさ}か持て余して
おった所じやが今日は
幾分樂しめそうじや

ぐわ
ぐわ

そういえば
お主名はなんという？
使い捨ての贅といえど
名はあるじやろ？

同じ白様に作られた誼^{よみ}
名は覚えておいてやろう
妾の名は藍^{あい}じや

ズグ
ズグ

く…お前に教える
名前なんてないっ

ズ
ズ

なんじや
可愛げがないのう
まあ良いこの触手で
腹を抉り続ければ少しは
素直になるじやろ

ズグ
ズグ

ずる
ずる

な…なにこの触手…お腹を
私の妖気ごと掻き回してる

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!





なんじゃ反応が薄いのもつと藻掻き苦しむ様を見たいのじゃがな

んん〜あ〜く

あ〜く

んん〜あ〜く

あ〜く

あ〜く



私の妖気が乱されて紋が反応してるここそのままじゃ...

あ〜く

あ〜く

ままっつ



ほう白様の淫術かふむ...紋が閉じているではないか

折角の淫紋が勿体ないぞどれ妾が妖気を流してお主の紋を開けてやろう

あ〜く

あ〜く

あ〜く

だ…駄目
駄目ええッ

ハハハハ

おおおお
おおおお
おおおお

おおお
おおお

おおお
おおお

おおお
おおお

おおお
おおお

おおお
おおお

おおお
おおお

おおお
おおお

おおお
おおお

おおお
おおお

おおお
おおお

なにこれ…紋が普通じゃない
反応してる…
あ…甘い…頭の芯から湧ける
ような快感が昇ってくる

わ…私…知っている…この感覚知っている…
無理やり犯されていく時とは違う
甘美な感覚…

し…白に調教されてた時と同じ
全てを委ねてしまう
官能…

官能…

あ♡♡♡♡♡

あ♡♡♡♡♡

んあ♡♡♡♡♡

どうじゃお主
名を教える気になったか？

こ…こいつの音が…
頭の奥に甘く響く…
白じゃない…
白じゃないのこ…

ひん…わ…ん
銀ですっ
わ…私の名前

銀ですッ

んあ♡♡♡♡♡

んあ♡♡♡♡♡

んあ♡♡♡♡♡

こいつは白から生み出された...
そして力が強い分妖気が白に近いんだ...
私の身体と紋が動揺する

思い出す...白に調教されてた時を
蕩けるような甘美な官能を...
幸せだった私を...

お願いします...
おしこの...
おしこの穴に
挿れてください

なんじや
急にしおらしくなりおって
これも淫紋の所為か？

それにしても尿道とは
相当白様に仕込まれた
ようじやな

銀と言ったか...良からう
妾の糸で膀胱の奥まで抉り
犯してやろう

おしこの穴に挿れてください
おしこの穴に挿れてください
おしこの穴に挿れてください



どうじゃ膀胱の中で
妻の糸が暴れて
いるのが分かるか？



おっおっ

おっおっ

おっおっ

おっおっ

ほう：
随分簡単に気を
やりおったのう

んムッ

ぐっぐっ

おっおっ

ぐっ



ほれ休むでない
気やろうが関係ないぞ
イキ狂つても続けるからのう

それにしても
使い捨ての贅とはいえ
白様が作った身体は
なんと頑強なことか



これだけ勢いよく
腹を抉られておるのに
全く壊れん

そこらの人間では一刻も
持たなかつたからのう



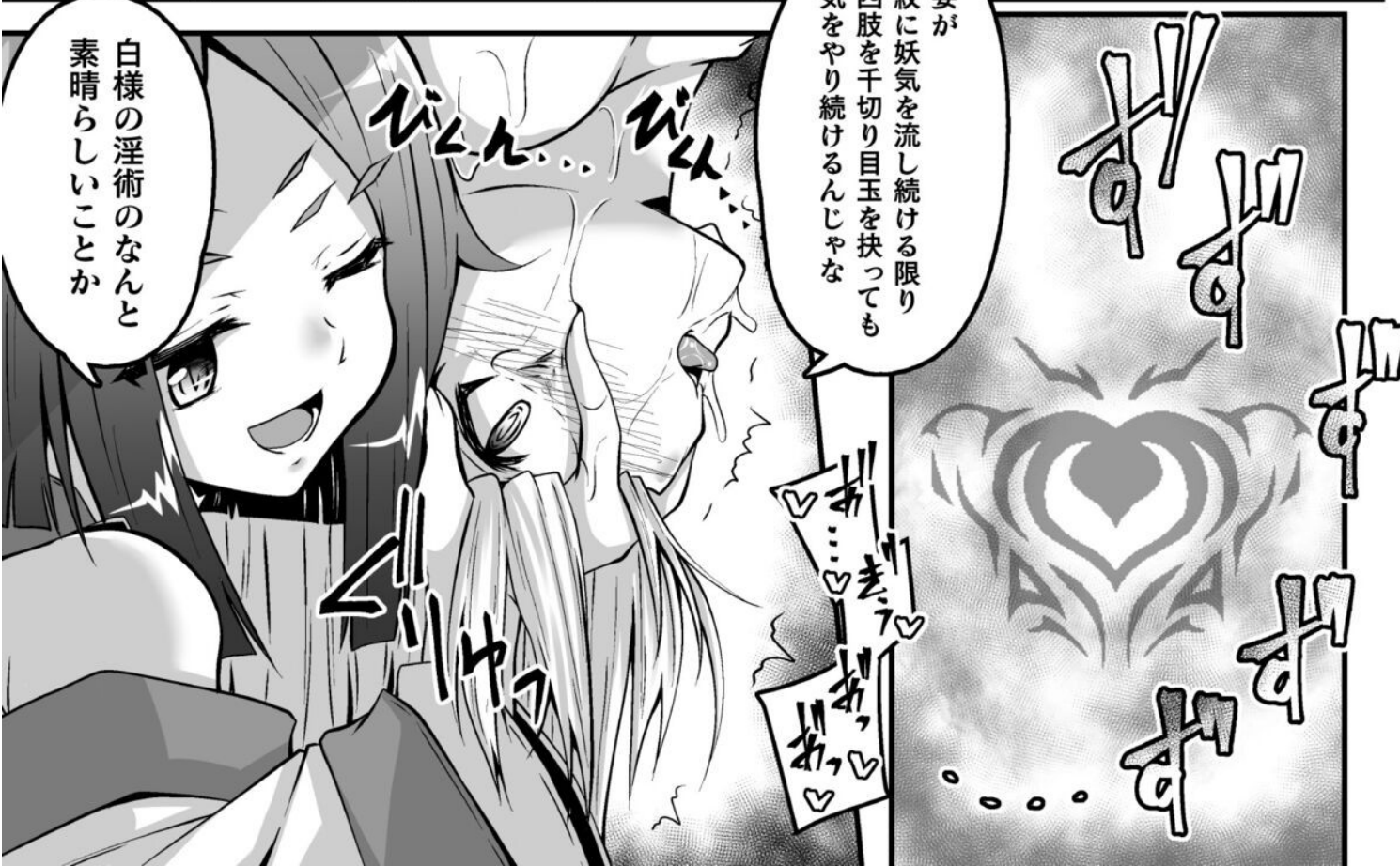
それにこの淫紋は
流石じや苦痛を全て
官能に変えておる

もう三刻は
気をやり続けておるのに
まだイキ狂わんか

どうやら淫紋は
苦痛だけではなく
精神そのものも守って
おるようじゃのう

妾が
紋に妖気を流し続ける限り
四肢を千切り目玉を抉っても
気をやり続けるんじやな

白様の淫術のなんと
素晴らしいことか



お主は喰うには向かんが慰み者としては非常に優秀じゃ

白様が喰う前に巫女共を触手で翳ってやったが最も霊力が高い巫女でさえ簡単に壊れたからのう

お主なら長らく
楽しめそうじゃな
悶え^な哭く声^なが着に
丁度良いかもしれん

なあに安心しろ
腸を抉っても手足を干切っても
妾の糸で繋げて直してやるぞ
妖気を流し込む限りお主は
狂わんし壊れん



二次元ドリームコミックス

妖狐淫紋奇譚

【第5話】

著者
ふみひろ

装丁
マイクロハウス

発行
株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコウビル1F

●編集部 TEL.03-3551-6147 / FAX.03-3551-6146

●販売部 TEL.03-3555-3431 / FAX.03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。

本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。

また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©Fumihiro

<https://ktcom.jp/>

【本作品のご意見、ご感想をお待ちしております】

本作品のご意見、ご感想、読んでみたいお話、シチュエーションなどどしどしお書きください！

読者の皆様の声を参考にさせていただきたいと思っております。

手紙・ハガキの場合は裏面に作品タイトルを明記の上、お寄せください。

◎アンケートフォーム◎

<https://ktcom.jp/goiken/>



◎手紙・ハガキの宛先◎

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコウビル

(株)キルタイムコミュニケーション 二次元ドリームコミックス感想係

Illustration by ふみひろ

『妖狐淫紋奇譚 第5話』
©KILL TIME COMMUNICATION

